



ブライツ・アセット株式会社

## 欧州議会選挙(2019年5月23日～26日)

### イギリスの欧州議会選挙への参加とポピュリズム政党の躍進

欧州議会選挙について

イギリスの選挙参加

次期欧州委員長のポスト

ポピュリズム政党の躍進

2019/04/12

金融商品取引業者：ブライツ・アセット株式会社  
登録番号：関東財務局長（金商）第 3102 号  
加入協会：一般社団法人第二種金融商品取引業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会  
HP : [www.brightasset.co.jp](http://www.brightasset.co.jp)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライツ・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

# 欧州議会選挙(2019年5月23日～26日)

## イギリスの欧州議会選挙への参加とポピュリズム政党の躍進

### 欧州議会選挙

欧州議会議員を普通選挙形式で選出する選挙で、1979年から5年ごとに行われている。統一された選挙制度はなく、各加盟国は以下の3つの原則に沿って自由に選挙制度を決められています。

- 政党名簿または単記移譲のいずれかによる比例代表制
- 比例代表制の性質に影響しない限りにおける、複数の選挙区の設定
- 5%を超えない限りでの最低得票率の設定

加盟国の人口規模を考慮しつつ、人口の少ない国には正確に比例配分するよりも多くの議員数を配分され、基本条約の協議において各加盟国に配分される議員数が決められています。(各国の議員数は下表参照)

加盟国	議席数	2019年議席数	加盟国	議席数	2019年議席数
ドイツ	96	96	オーストリア	18	19 (+1)
フランス	74	79 (+5)	ブルガリア	17	
イタリア	73	76 (+3)	フィンランド	13	14 (+1)
イギリス	73	0	デンマーク	13	14 (+1)
スペイン	54	59 (+5)	スロバキア	13	14 (+1)
ポーランド	51	52 (+1)	アイルランド	11	13 (+2)
ルーマニア	32	33 (+1)	リトアニア	11	
オランダ	26	29 (+3)	クロアチア	11	12 (+1)
ベルギー	21		ラトビア	8	
チェコ	21		スロベニア	8	
ギリシャ	21		キプロス	6	
ハンガリー	21		エストニア	6	7 (+1)
ポルトガル	21		ルクセンブルグ	6	
スウェーデン	20	21 (+1)	マルタ	6	
合計	751	705			

### 選挙の日程 (2019年5月)

5月23日(木)	5月24日(金)	5月25日(土)	5月26日(日)
オランダ	アイルランド	ラトビア、マルタ、スロバキア	オーストリア、クロアチア、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ハンガリー、イタリア、リトアニア、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロベニア、スペイン、スウェーデン
	チェコ		(投票が義務付けられている国) ベルギー、ブルガリア、キプロス、ギリシャ、ルクセンブルグ

出典：欧州議会「2019 European elections: National rules」Expected election day より

## ブリグジット（イギリスの EU 離脱）による議席数配分変更

欧州議会・機構問題委員会（AFCO）は英国の EU 離脱（ブレグジット）を念頭に、議員定数など今後の欧州議会の在り方について協議し、英国の現有 73 議席のうち、46 議席を削減、27 議席を他の加盟国に再配分し、全体の議員定数を 705 に削減する欧州議会議員数の再編案が明らかにされました。（2018 年 1 月 23 日 EU）

現在の欧州議会選挙制度では、EU 市民は国籍に関係なく、その居住国で、議会各会派が各国で擁立した候補者に投票（非拘束式比例代表制を採用する国が多いが、国によって異なる）することができます。このため、加盟国ごとに議席を割り当てる制度が取られています。今回の再編案によると、再配分する 27 議席のうち、現在の EU 加盟国の中で、最大の人口規模を誇り、現有議席数も最多のドイツ（96 議席）については変更しない（法令上の配分議席上限は 96）が、フランスとスペインには 5 議席、イタリアとオランダは 3 議席、アイルランドは 2 議席、ポーランド、ルーマニア、スウェーデン、オーストリア、デンマーク、スロバキア、フィンランド、クロアチア、エストニアは 1 議席、それぞれ追加配分されることになりました。

なお、欧州議会は今回の再編案についての発表で、46 議席の削減は単なる返上ではなく、「今後の新規 EU 加盟国や選挙制度改正に向けた留保」という表現を用いています。

## の予定でしたが、EU とイギリスは、4 月 10 日深夜にブレグジットの 10 月 31 日までの延期に合意

欧州連合（EU）はブリュッセルで開いた緊急首脳会議で、英国の EU 離脱の再延長で合意しました。離脱期限は 10 月 31 日となります。6 月の定例首脳会合で進捗状況を確認します。

トスク大統領は 11 日午前 2 時過ぎにジャン＝クロード・ユンケル欧州委員長と記者会見を行い、「今後どう動くかは全てイギリスにゆだねられている。イギリスはなお離脱協定を批准できる。そうなれば延長は終了する。6 月が崖っぷちというわけではなく、新たな決定をする時期でもない。これは明確にする必要がある。6 月は延期に関する決定のための時期ではない。それを議論することさえなく、加盟国に状況を知らせるだけにとどめるつもりだ」と話しました。

イギリスにはブレグジット戦略の再考のほか、EU 基本条約（リスボン条約）50 条の発動を撤回し「ブレグジットを中止する」選択肢もあるとしています。ユンケル欧州委員長は、「（5 月に行われる）欧州議会選挙にはイギリスも参加するだろう。少し奇妙なことだが、ルールはルールであり、我々は EU 法を尊重すべきだ。その上で、何が起きるか注視する」と話しました。これに対しメイ首相は、もしイギリス議会は 5 月第 3 週までに離脱協定を批准すれば、イギリスは欧州議会選挙に参加する必要はないと述べました。また、離脱協定が承認されるまではイギリスは「EU 加盟国としての権利と義務を全て負う」と話しました。

これでイギリスは、欧州議会選挙の準備をすすめながら、それ以前に離脱を議会で承認できるかという選択肢が迫られています。英 BBC は、5 月 23 日の欧州議会選挙に参加しなければ、イギリスは 6 月 1 日に崖っぷちのブレグジットとなる可能性があると報道しています。

（NHK ニュース、日本経済新聞 2019/4/11 より）

選挙を行った場合、選挙は実質 2 回目の国民投票という意味を持ちかねません。

10 月 31 日が離脱日となれば、イギリスは欧州委員会の次期委員長が就任する前日に EU を離脱することになります。現時点では、イギリスの EU 離脱で調整された新しい欧州議会の議席数配分変更を元に戻すか、どうなるかという話は決定されていません。

## 参考：欧州議会での政党グループ

欧州議会では複数政党制がとられています。複数政党制のもとでは通常、1つの政党が単独で政権をとることはなく、政党間で会派を結成して連立を構成することになります。しかしながら欧州議会の場合は選挙を実施した後で政権を形成するということがなく、そのため連立政権樹立ということはありません。

ヨーロッパ規模の政党は、保守系の欧州人民党（キリスト教民主）と社会主義系の欧州社会党です。両党は欧州議会においてもそれぞれ2大会派（それぞれ欧州人民党・欧州民主主義グループ「EPP+ECR」と欧州社会党グループ「S&D」）を、政治指向を同じくする政党で結成しています。また両会派以外にも共産主義系、緑系、地方主義系、国民保守系、リベラル系、欧州懐疑派などの会派も結成されています。なお2007年11月以降、8つの会派が存在しているとされています。また会派に属していない議員もいます。

### 欧州議会における主要会派（2019年3月時点）

会派	代表者	議席数	特徴	主要国での政党名
欧州人民党グループ (EPP)	マンフレート・ウーバー	217	中道右派、親 EU 派	独「CDU/CSU」、仏「共和党(LR) : 旧国民運動連合 UMP」、伊「人民の自由、FI」、西「国民党(PP)」、澳「OV」、蘭「CSA」、ポーランド「PO、PSL」、 <b>ハンガリー「フィデス」、英「保守党」</b>
欧州保守改革グループ (ECR)	サイド・カマル	76	保守改革、 <b>EU 懐疑派</b>	ポーランド「法と正義(PiS)」、 <b>蘭「FvD)」、(英「保守党)」、</b>
社会民主進歩同盟グループ (S&D)	ジャンニ・ピッテッラ	186	社会民主主義、中道左派、親 EU 派	独「SPD」、仏「社会党」、伊「民主党(PD)」、西「社会労働党」、澳「SPO」、英「労働党」
欧州自由民主同盟グループ (ALDE)	ヒー・フェルホフスタット	68	自由主義、中道主義	独「FPD」、仏「アン・マルシュ、民主運動」、伊「価値あるイタリア IdV」、西「C's、カタルーニャ、バスク」、英「自由民主党」、蘭「D66、VDD」
欧州統一左派・北方緑の左派同盟グループ (GUE-NGL)	ガブリエレ・ツインマー	52	共産主義、反現体制、反ネオナチズム、反 NATO、	独「左翼党(Linke)」、仏「共産党」、西「統一左翼、ポデモス」、ギリシャ「共産党、急進左派連合」、蘭「社会党」、葡「共産党、左翼ブロック」
欧州緑グループ・欧州自由連盟 (Greens-EFA)	レベッカ・ハルムス フィリップ・ランベール	52	急進、環境主義、地方分権推進	独「同盟 90/緑」、仏「緑の党」、西「緑、カタルーニャ・バスク独立派」、蘭「緑」
自由と直接民主主義のヨーロッパ (EFDD)	カイジェル・ファラージ デビッド・ボレッリ	41	<b>EU 懐疑派</b>	<b>伊「五つ星」、独「AfD)」、英「独立党」</b>
国家と自由の欧州 (ENF)	マリーヌ・ル・ペン マルセル・ド・グラーフ	37	極右、 <b>EU 懐疑派、移民排斥</b>	<b>仏「国民戦線」、伊「同盟」、蘭「PVV)」、澳「FPO)」、英「独立党」</b>
無所属 (NI)	マルセル・ド・グラーフ	21		

黄色枠は極右ポピュリズム政党の政治グループ、灰色枠は EU 懐疑主義政党

出所：欧州議会

各国のポピュリズム政党はそれぞれに欧州議会での政党グループに属していますが、イタリアで起こったポピュリズム政党による連立政権と同じようなことが起これば、EFDD と ENL の連立によって欧州議会でも最大派閥となりえます。フランスでは、社会党から独立したマクロン大統領が率いる「共和国前進：アン・マルシュ」が第1党ですが、マクロン人気に陰りが見えていることから、フランス国内での選挙動向も気になります。また、「アン・マルシュ」が欧州議会内でどの政治グループに属するのかがカギとみられます。（アン・マルシュは中道左派で ALDE ながら、ポピュリズム政党グループへの対抗から保守中道右派グループと提携する可能性あり）

## 欧州委員長の指名

前回の2014年選挙から、欧州議会内の各政治党派（political group、政党グループともいう）は、次期欧州委員会委員長候補者を指名して選挙運動を行い、その選挙結果を欧州理事会が考慮し、かつ適切な協議を行った後、特定多数決で委員長候補者を欧州議会に提案することになりました。そのため、今年も4月から5月にかけて選挙活動が展開され、欧州委員会委員長候補者による討論会も行われることになっています。

5月15日には有力候補者による討議が、ブリュッセルの欧州議会本会議場で予定されています。6月には、新欧州議会議員による政党グループ結成・所属の交渉が行われる予定です。

つまり、次期欧州委員長のポストは欧州議会選挙の結果が非常に重要な意味を持てきます。

## 欧州連合（EU）の最重要ポスト「欧州委員長」の座を射止めるのは誰か。

2019年秋に退任するユンケル欧州委員長（63）の後任選任が本格化しています。カギを握るのは19年5月の欧州議会選挙です。中道右派の最大会派の「欧州人民党（EPP）」はドイツのマフレット・ウェーバー欧州議員（CSU：バイエルン州）を新委員長に就任させるシナリオを描いているようです。ただし、欧州では旧来型政党の退潮が鮮明で、欧州議会選でも中道右派・中道左派の二大勢力による支配の構図が終りを迎えるとの見方が強くなっています。域内で勢いを保つポピュリズム（大衆迎合主義）勢力も、委員長ポストを狙っているようです。

## 欧州議会主要会派の委員長候補者選び

EUの政策執行機関である欧州委員会はEU機関の法案提出権を独占し、域外との通商交渉も一元的に担っています。そのトップとしてEU内で最も強力な権限を握るのが欧州委員長のポストです。

EU基本条約が定める欧州委員長の選出方法は(1)19年5月の「欧州議会選挙の結果を考慮」して、EU首脳会議が人事案を提案(2)欧州議会が単純過半数で承認する——というのが基本です。ただ、具体的な選び方を巡っては、EU内でも温度差があるようです。

欧州議会やユンケル氏は、欧州議会の各会派がそれぞれの委員長候補を立てて議会選を戦い、最大勢力となった会派の候補が原則として欧州委員長に就く仕組みを求めています。「シュピッツェンカンディダートン」（ドイツ語で「筆頭候補」）と呼ばれる手法で、前回14年に採用され、ユンケル氏もこの方式で選ばれました。加盟国首脳が密室協議で選んだかつての決め方よりも、EU市民の民意をある程度反映できると主張しています。

一方、EU首脳会議側も欧州委員長の人事権を簡単には手放さないようです。昨年2月に開いた非公式首脳会合では、欧州議会選で第1党となった候補者が「自動的に就任することはない」との姿勢で一致。EU条約に沿って選挙結果を「考慮」はするものの、首脳会議として別の候補を推す道も残っています。

## 親EU派も既成政治転換狙う

既存の政治枠組みの転換を狙う動きは「親EU」派でも広がっています。波乱の芽となっているのがマクロン仏大統領です。自国フランスで新政党「共和国前進」を立ち上げ、長らく続いてきた共和党（中道右派）と社会党（中道左派）の二大政党制を突き崩しました。欧州議会でも第4会派でリベラル派の「欧州自由民主連盟（ALDE）」との連携を探っています。

マクロン氏とコンビを組むのがALDE所属のルッテ・オランダ首相です。これまで同会派は元ベルギー首相で欧州連邦主義を掲げるフェルホフスタット氏（65）が主導してきました。同氏は14年の前回選挙でもALDEの欧州委員長候補でしたが、今回も指名を狙っています。これに対抗して世代交代を狙うのがマクロン—ルッテ連合です。マクロン氏の意中の欧州委員長候補としては、米グーグルなどIT巨人企業との対決姿勢で注目を集めるデンマーク出身のベステアー欧州委員（50）の名前が取り沙汰されています。

## EU懐疑派の各国の政党 EU議会選挙に向け連携

自国第一主義を掲げ、EU＝ヨーロッパ連合に懐疑的な立場をとるヨーロッパ各国の政党がイタリアに集まり、5月に開かれるEUの議会選挙に向けて連携していく考えを明らかにしました。

イタリアのサルビーニ副首相兼内相は8日、北部のミラノで、ドイツAfDとデンマーク国民党、真のフィンランド人などの右派の政党の党首などとともに記者会見を行いました。今回の集会には参加しなかったが、フランスの極右「国民連合」のルペン党首もサルビーニ氏と連携しています。

サルビーニ氏は、反移民を掲げる右派政党「同盟」の党首で、他の3か国の政党とは自国第一主義を掲げ、EUに懐疑的な立場をとる点で一致しています。会見でサルビーニ氏は「われわれは新しいヨーロッパの夢に取り組む。いま、多くの市民にとってEUは悪夢でしかない」と述べ、来月下旬に開かれるEUの議会、ヨーロッパ議会の選挙で各党と連携し、一大勢力を目指す考えを明らかにしました。

欧州議会では現在、それぞれが3つの会派に分かれています。選挙後には新たに統一した会派を結成するとしています。ヨーロッパでは格差への不満や中東などから流入が続く移民に対する不安などを背景にEUから主権を取り戻すべきだなどと訴える政党が各国で勢いを増しています。サルビーニ氏は来月中旬にはミラノで大規模な集会を行うとしていて、EUに懐疑的な勢力がどこまで有権者の支持を集めるのか注目されます。

(日本経済新聞、NHKニュース 2019/4/10より)

## 欧州議会最大会派、ハンガリーのオルバン与党を資格停止

欧州議会の最大会派、欧州人民党(EPP)は20日、ハンガリーのオルバン首相が率いる「フィデス・ハンガリー市民同盟」を資格停止処分にすると決めた。オルバン氏らがユンケル欧州委員長に対し、難民を欧州に引き入れているなどという中傷を繰り返したためだ。

(日本経済新聞 2019/3/21より)

オルバン氏率いる「フィデス」はもともと最大会派のEPPグループに属していましたが、この報道によれば、オルバン氏は同じ反移民のイタリアの同盟と連携をさらに進める可能性が高くなってきました。因みに、「フィデス」は世論調査では14議席獲得と予想されています。

## 最後はやはりメルケル欧州委員長か

ブリュッセルではメルケル独首相に次期欧州委員長を待望する声も依然絶えないようです。欧州議会選でポピュリズム勢力が予想以上の台頭をみせれば、対抗策として「親EU」勢力が結集できるのはメルケル氏しかいないとの見立てです。メルケル氏自身も党首の座を退陣しました。首相職は維持していますが、EU全体では、米トランプ大統領の打ち出す貿易戦争との対決が非常に重要な問題となっており、欧州委員長として米国との交渉の旗振り役というポストは非常に重要で個人の経歴にとっても魅力的と考えているようです。欧州議会選挙でEPPがポピュリスト・グループに負けるようなことがあれば、メルケル委員長の可能性も出てくるのではないのでしょうか。

様々な候補が次から次へと浮上しては消えていくのがEUトップ選びの常でした。出馬を見送ったバルニエ氏も、英離脱交渉をうまくまとめればEU首脳会議が土壇場で候補者として担ぎ出すとの観測もありましたが、交渉の延期によって可能性は無くなりました。ポスト・ユンケル選は混とんとしています。欧州各国で中枢政治にも影響力を発揮し始めたポピュリズム勢力の台頭という欧州政治の地殻変動の影響を避けられないことだけは確かでしょう。

(各種報道によりブライト・アセットが作成)

## ポピュリズム政党が欧州議会選挙で勝利したら、大変なことになりかねない

ECFR(欧州外交評議会)が2019年2月に、1/3時点のPoll of Pollsの世論調査をもとに、欧州議会の変化について興味深いレポートを作成しました。ECFRは「5月の欧州議会選では、国民国家への回帰をうたう反EUの民族主義政党グループ(極右ポピュリズム政党)がかなりの議席を獲得する可能性がある。EUの中枢で政策決定や立法手続きをまひさせることができるようになり、EUのプロジェクトは不完全だが改革は可能だと主張する向きに冷や水を浴びせる恐れがある」と指摘した。

ただし、反EU政党は政策を巡り各党の根本的な相違を克服する必要があるが、反移民を掲げるイタリアのサルビーニ副首相はポーランドのカチンスキ元首相やハンガリーのオルバン首相らとの勢力結集をすでに模索している。

ECFRは、極右政党だけ(ENFとEFDDおよび極右新政党)でも、132議席(19%)獲得し、欧州懐疑派(ECR)が65議席(9%)獲得するとしている。さらに、既存体制に反対する反エスタブリッシュ政党(GUE/NGL)も53議席(8%)獲得しそうな勢いである。EU懐疑派だけでは現状28%だが、これに反エスタブリッシュ政党も連携すれば合わせて35.5%の議席を確保でき、EPPを超えて第一党となる。EUの政策がいろんな面で滞る可能性があると危機感をにじませた。

もし上位欧州懐疑派が一枚岩となって33%以上獲得した場合、以下のことが問題となってくる

- ✓ もし上位保守政党が一枚岩になれなかった場合、ポピュリズム政党グループが第1党となり、欧州委員長を指名できる。さらには、欧州大統領も視野に入ってくる。

- ✓ 議会運営（条約、立法化、各種指令、予算作成・編成）を遅延・妨害することが可能になる。
- ✓ 各種委員会のうち3分の1以上の議長に選出できる。（ただし重要な委員会は除く）
- ✓ 委員会によって任命された委員会議長の承認を妨げることが可能

出所：Bloomberg 2019/2/11より

[https://www.ecfr.eu/specials/scorecard/the\\_2019\\_European\\_election](https://www.ecfr.eu/specials/scorecard/the_2019_European_election)

### 欧州議会選挙世論調査

会派	現議席数 (750)	欧州議会議席数予想※1 (705 : %)		世論調査(Poll of Polls)※2	
				1/3 時点	4/11 時点
欧州人民党グループ (EPP)	217	▲29	188 (27)	179	177 (25%)
社会民主進歩同盟グループ (S&D)	186	▲44	142 (20)	138	139 (20%)
欧州保守改革グループ (ECR)	76	▲23	53 (8)	55	59 (8%)
欧州自由民主同盟グループ (ALDE)	68	+4	72 (10)	89	95 (13%)
欧州統一左派・北方緑の左派同盟グループ (GUE-NGL)	52	▲3	49 (7)	53	48 (7%)
欧州緑グループ・欧州自由連盟 (Greens-EFA)	52	▲1	51 (7)	42	45 (6%)
自由と直接民主主義のヨーロッパ (EFDD)	41	▲11	30 (4)	39	33 (5%)
国家と自由の欧州 (ENF)	37	+22	61 (9)	60	61 (9%)
新グループ※3	NA	NA	NA	43	40 (6%)
無所属 (NA+その他)	21		59 (8)	7	8 (1%)

黄色枠は極右ポピュリズム政党の政治グループ、灰色は EU 懐疑派政治グループ。

※1：欧州議会世論調査はイギリスを除いた集計

出所：欧州議会 欧州議会選挙予想 3/29/2019より

<http://www.europarl.europa.eu/news/en/press-room/20190228IPR29246/new-seat-projections-for-the-next-european-parliament>

※2：Poll of Polls:欧州議会選挙世論調査 4/11/2019（最新版）<https://pollofpolls.eu/EU>

※3：極右政党の西「Vox」、蘭「FvD」、ポーランド「Kukiz15」は既存グループには属さず、新グループとして扱われています。

### 最近の世論調査動向

ドイツ	極右ポピュリズム政党の「AfD」の支持率は10～15%で推移しています。保守政党の「CDU/CSU」の支持率は30%前後で推移、中道左派の「SPD」は15～18%で推移、昨年秋以降支持率を伸ばしている「緑の党」が20%前後の支持率で2番目に高くなっています。
フランス	昨年以降マクロン大統領の支持率は低下したまま(昨年末は20%近辺まで下がったが今は30%くらいまで戻している)で、党首である「共和国前進：REM」の支持率は20～23%前後で低迷しています。極右ポピュリズム政党の「国民連合：RN」は20～25%の支持で保守与党と支持率は拮抗しています。
イタリア	ポピュリズム政党の連立政権が始まって以降、「同盟」は30～35%程度で推移、「五つ星運動」は昨年の30%前後の支持率から20～25%まで下がってはいますが、合わせて60%近い支持率で推移しています。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

スペイン	「国民党：PP」のスカンダルから政権を奪回した「社会労働党：PSOE」が25～30%の支持を集めています。「国民党」の支持率は20%前後で推移しています。政権奪回時に人気のあった「シウダダノス」は最近15%程度で推移しています。国民党から離脱して発足した極右ポピュリズム政党の「Vox」は地方選挙で10%程度の議席を確保するなど、スペインでもポピュリズム政党への支持が高まりつつあります。「Vox」への支持は10%前後で推移しています。
オランダ	3月以降極右ポピュリズム政党の「FvD」が急速に支持率を増やして、第1党支持を集めています。同じく極右ポピュリズム政党の「PVV」から支持が流れているようですが、合わせて35～38%の支持を集めています。
ベルギー	EUの本部があるブリュッセルがあるベルギーでも、極右ポピュリズム政党の「VB」は10%と一定の支持があります。ただしVBはフランドル地方の独立を標榜している点で他国のポピュリズム政党とは一線を画している。
オーストリア	極右ポピュリズム政党の「FPÖ」は支持率25%程度で推移しています。FPÖは中道保守の「ÖVP」（支持率は35%前後）と連立を組んでいます。
ギリシャ	反EUで左寄りの「SYRIZA」は25～30%程度の支持率で推移しています。極右の「GD」は7～10%の支持率しかありません。与党「ND」の支持率は30～35%程度の支持率しかないので、政権運営は不安定です。反EUの少数政党とEU寄りの「ND」で支持はその時々で変わり、政権移行がよく起こります。
ポーランド	反EUを唱える「法と正義：PiS」は40%前後の支持があり、カチンスキ政権は安定しています。極右ポピュリズム政党の「クキス15：X」の支持は5～10%で推移しています。
ハンガリー	EPPはオルバン首相が率いる反移民の「フィデス・ハンガリー市民同盟」を資格停止処分にするに決めた。「フィデス」の支持率は50%前後で推移している。今後どの政治グループに参加するかが焦点。

(Poll of Polls:2019/4/7 より)

#### 参考：歴代欧州委員会委員長

氏名	出身国	所属政党	在任期間
ヴァルター・ハルシュタイン	西ドイツ	ドイツキリスト教民主同盟	1958年1月1日 - 1967年6月30日
ジャン・レイ	ベルギー	自由改革党	1967年7月2日 - 1970年7月1日
フランコ・マリア・マルファッティ	イタリア	キリスト教民主主義	1970年7月2日 - 1972年3月1日
シッコ・マンスホルト	オランダ	労働党	1972年3月22日 - 1973年1月5日
フランソワ＝グザヴィエ・オルトリ	フランス	共和国連合	1973年1月6日 - 1977年1月5日
ロイ・ジェンキンス	イギリス	労働党	1977年1月6日 - 1981年1月19日
ガストン・トルン	ルクセンブルク	民主党	1981年1月20日 - 1985年1月6日
ジャック・ドロール	フランス	社会党	1985年1月7日 - 1995年1月24日
ジャック・サンテール	ルクセンブルグ	キリスト教社会党	1995年1月25日 - 1999年3月15日
マヌエル・マリン	スペイン	スペイン社会労働党	1999年3月15日 - 1999年9月17日
ロマーノ・プローディ	イタリア	欧州自由民主改革党	1999年9月17日 - 2004年11月22日
ジョゼ・マヌエル・バローゾ	ポルトガル	社会民主党	2004年11月22日 - 2014年11月1日
ジャン＝クロード・ユンケル	ルクセンブルグ	キリスト教社会人民党	2014年11月1日 (現職)



## 参考：欧州委員会委員長の人事

欧州委員会委員長は、欧州連合の政策執行機関である欧州委員会の首班です。欧州連合の役職では最も強力な権限を持っています。委員長は欧州委員会の委員の担当職域を割り当て、また必要であればその担当職域の変更や委員の解任を行なうことができます。また委員長は委員会としての政策方針やすべての法案を策定します。ジャック・ドロールの在任期間に、委員長職はしだいに大統領制的な性格を強めていき、サンテル委員会の総辞職のような事態があったものの、委員長は委員会において支配的な権力を持つようになっています。

欧州委員会委員長は、欧州理事会と欧州議会によって任命されます。任期は5年で、委員長は委員会とともに、両者に対して不信任を決議することができる欧州議会に対して責任を負っています。

欧州憲法条約では、欧州理事会は欧州委員会委員長の選出にあたって直近の欧州議会議員選挙の結果を考慮にいれなければならないと規定されています。欧州議会も欧州理事会が指名した委員長候補を、単に承認するというのではなく、形式のうえで選出します。

## 参考：欧州委員会委員長の任命について（欧州連合条約第17条第7項）

欧州議会選挙の結果を考慮し、また適切な協議を行なったうえで、欧州理事会は条件を満たした多数をもって欧州議会に対して委員長候補を提案するものとする。委員長候補は欧州議会によって、その構成員の多数をもって選出されるものとする。委員長候補が必要な多数を得られなかった場合には、欧州議会は条件を満たした多数をもって、同様の手続きで欧州議会によって選出されるような新しい候補者を提案するものとする。理事会は次期委員長と協力して、理事会が委員会の委員として任命しようと提案するほかの人物の一覧を採択するものとする。委員候補は、加盟国からの提案に基づいて、第3項第2段と第5項第2段に定められた基準に従って選出されるものとする。

コラム：欧州人民党グループの代表マンフレート・ウェーバー氏はドイツ人です。ドイツ出身者が欧州委員会委員長を務めたのは、1960年代に旧西ドイツのヴァルター・ハルシュタイン氏以降いません。ECB 総裁の任期が来年切れることから、後任人事が注目されていますが、ドイツのメルケル首相としては、ECB 総裁のポストよりも、昨今の米国トランプ大統領が掲げる貿易戦争に対応するため欧州委員長のポストをドイツとしては狙っているとの報道が出てきています。